



「千種災害対策プロジェクト」



～千種の「711」を忘れない!～

1. 過去から学び未来へと向かう防災学習の推進

昭和38年(1963年)7月11日、千種町は未曾有の大水害に見舞われ、町の中心部が水没した。以来50年、語り継がれてきた経験もいつの間にか風化しようとしていた。本校は、数年前から地域と連携した防災訓練を行い、水害・土砂災害への対応を中心に「過去から学び未来へと向かう防災学習」に取り組んでいる。



千種町中心部(岩野辺川氾濫)



宍粟市総合防災訓練に全校生が参加(平成24年11月11日)



2. 千種町立体ハザード模型と木造仮設住宅の製作

千種町の洪水・浸水被害を想定し、学校や地域住民が災害意識の啓発を進めるための方法として、中心部の立体模型を作製した。現在、商店街空き店舗を活用した「千高街の駅」で災害啓発パネルと共に常設展示し、千種町の「711」を忘れぬようにと広く呼び掛けている。また、地元材を活用した木造仮設住宅を地域の支援を得て作り、「減災→災害対応→生活復旧」の行動モデルについて考える契機としている。



立体ハザード模型の製作



千高街の駅での常設展示



木造仮設住宅(約9坪)

3. 地域連携総合防災訓練を実施

平成25年11月23日(土)、地域連携総合防災訓練を実施した。避難所に指定されている千種高校体育館を舞台に、住民の誘導訓練・応急処置訓練・炊き出し訓練、被災後の生活復旧訓練として木造仮設住宅の公開建前を行った。平成26年度も地域と連携した訓練を行って水害の実態を学び、防災及び減災実現の方法について考える。



千種の「711」を語り継ぎ、防災・減災を目指します!